

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道231号・232号 ^{るもい} 留萌拡幅		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自： ^{ほっかいどう} 北海道 ^{るもい} 留萌市 ^{はまなか} 浜中町 至： ^{ほっかいどう} 北海道 ^{るもい} 留萌市 ^{しおみ} 塩見町			延長	4.3km	
事業概要 一般国道231号は、札幌市を起点とし留萌市に至る延長約129kmの幹線道路であり、一般国道232号は、稚内市を起点とし留萌市に至る延長約128kmの幹線道路である。 このうち留萌拡幅は、留萌市街の交通混雑を低減し、道路交通の定時性、安全性の向上、物流の効率化を目的とした、留萌市浜中町から塩見町に至る延長4.3kmの4車線拡幅事業である。						
H2年度事業化	H2年度都市計画決定 (H-年度変更)	H2年度用地補償着手	H3年度工事着手			
全体事業費	約233億円	事業進捗率	95%	供用済延長	4.1km	
計画交通量	5,700~15,000台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.04 (残事業) 2.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 12/316億円 (事業費：11/304億円) (維持管理費：0.57/12億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 33/330億円 (走行時間短縮便益：30/273億円) (走行経費減少便益：2.2/42億円) (交通事故減少便益：0.61/14億円)	基準年 平成24年		
感度分析の結果 事業全体および残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=0.9~1.2(交通量±10%) 事業費：B/C=1.0~1.0(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.0~1.0(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=2.2~3.0(交通量±10%) 事業費：B/C=2.5~3.0(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.7~2.7(事業期間±20%)						
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①交通混雑の緩和 ・国道231号と国道232号が拡幅・短絡されることにより交通容量が増加し、通過交通との交通分散も図られることで、定時性の確保や利便性向上が期待される。 ②物流利便性の向上 ・海水浴シーズンの観光混雑時期等についても安定した輸送ルートが確保され、水産品の流通利便性向上が期待される。 ③重要港湾留萌港への利便性向上 ・安定した輸送ルートが確保され、重要港湾留萌港への利便性向上が期待される。 ④救急搬送の安定性向上 ・高次医療施設への救急搬送の速達性及び安定性向上が期待される。 ⑤日常活動圏中心都市への利便性向上 ・交通混雑が緩和され、小平町・増毛町の日常活動圏となっている留萌市への利便性向上が期待される。 ⑥CO2排出量の削減 ・自動車からのCO2排出量1,975(t-CO2/年)の削減が期待される。						
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 留萌市など1市6町1村の首長等で構成される「北海道留萌地域総合開発期成会」等により、早期整備の要望を受けている。						
知事の意見 ： バイパスの整備により、留萌市街における交通混雑の緩和や物流の効率化が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、当該事業の継続にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。						

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成 2 年 1 0 月 北海道縦貫自動車道 深川インターチェンジ～旭川鷹栖インターチェンジ供用
- ・平成 1 0 年 4 月 深川留萌自動車道 深川ジャンクション～深川西インターチェンジ供用
- ・平成 1 0 年 7 月 深川留萌自動車道 深川西インターチェンジ～秩父別インターチェンジ供用
- ・平成 1 5 年 7 月 深川留萌自動車道 秩父別インターチェンジ～沼田インターチェンジ供用
- ・平成 1 6 年度 「ゴールデンビーチるもい」全面供用
- ・平成 1 7 年 3 月 深川留萌自動車道 沼田インターチェンジ～北竜ひまわりインターチェンジ供用
- ・平成 1 8 年 1 1 月 深川留萌自動車道 北竜ひまわりインターチェンジ～留萌幌糠インターチェンジ供用
- ・平成 2 3 年度 「留萌港（原木）」拠点化形成促進港に選定
- ・平成 2 4 年度 深川留萌自動車道 留萌幌糠インターチェンジ～留萌大和田インターチェンジ供用予定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成 3 年度に工事着手して、用地進捗率 1 0 0 %、事業進捗率 9 5 %となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

交通状況等を再調査した結果、道路構造を見直している。

対応方針

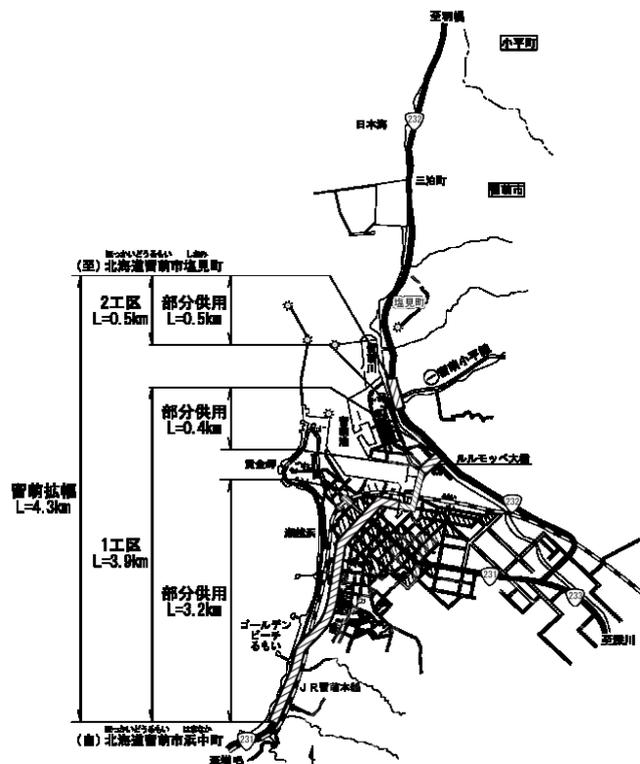
事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図

凡 例	
	供 用 中
	再 評 価 箇 所
	部 分 供 用



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。